

はすだね通信 第51号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成26年2月18日発行

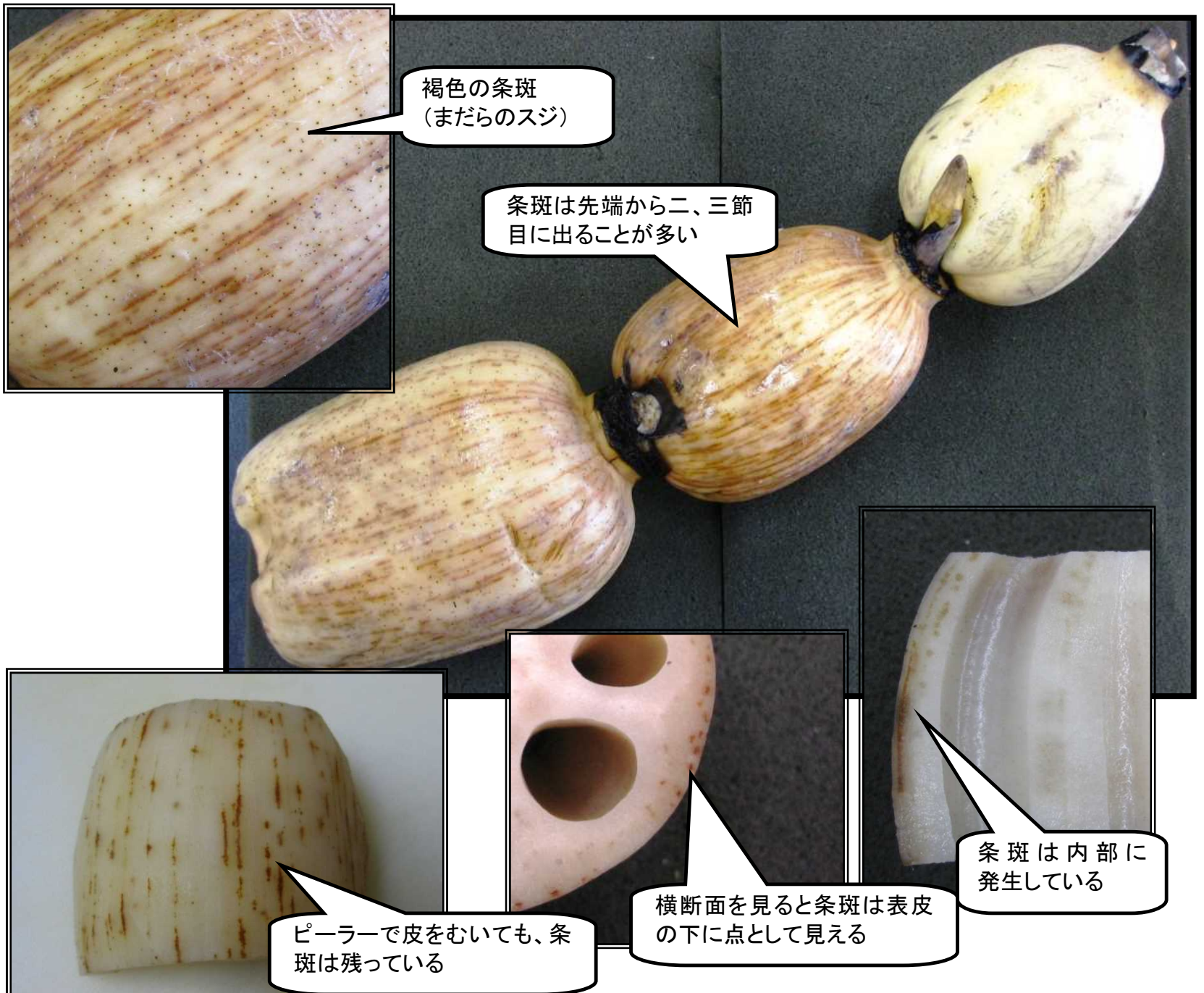
ハス条斑病の対策を徹底しましょう！

昨年末、普及センターにハス条斑病に極めて似た症状を呈したレンコンが持ち込まれました。現在、つくば市にある(独)農業・食品産業技術総合研究機構に診断を依頼し、条斑病であることを確認してもらっていますが、普及センターによる生産者やJAへの聞き取りでは、様々な地域で似た症状が出ていることが分かりました。本病はこれまでに岡山県や徳島県での発生が報告されていますが、きちんと対応すれば怖い病気ではありません。

そこで、今回はハス条斑病について紹介しますので、これから始まる植え付けやアブラムシ防除の際に注意を払ってください。

ハス条斑病の症状

- ・症状は収穫部(レンコン)に現れ、主に褐色の条斑(まだらのスジ)が生ずる。
- ・条斑はレンコンの先端から二、三節目に出ることが多い。
- ・地上部で症状を見分けることはほぼ不可能。レンコンを掘ってみないと分からない。



ハス条斑病の原因

- ・原因はハス条斑ウイルス(用語説明※)
- ・ハス条斑ウイルスに感染したハスは全身でウイルスを保毒する。
→感染した種バスや漏生の種子によりウイルスが次作にも持ち込まれる。
- ・クワイクビレアブラムシ(ハスを加害するアブラムシ)によって虫媒伝染(用語説明※)する。
→アブラムシの媒介により、次から次へと伝染する可能性がある。

用語説明

※ウイルス:極めて小さく電子顕微鏡を利用しないと観察できない。ウイルスは自分では増殖できず、他の植物などの細胞に寄生して増殖する。ウイルス病にかかると治療できないので、一般的な作物栽培では周囲への感染予防のために抜き取って処分することが多い。

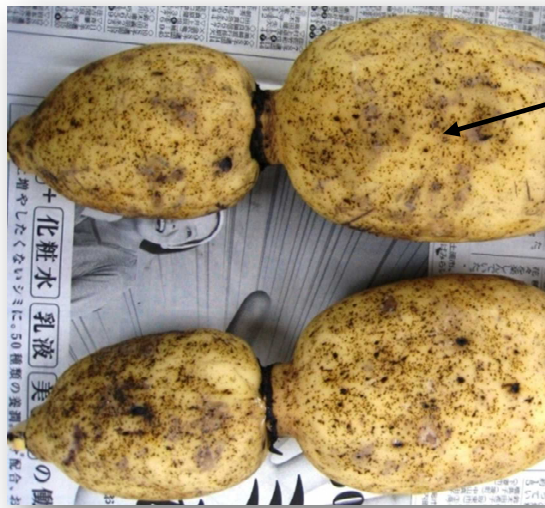
※虫媒伝染:害虫がすでにウイルスに感染している植物から汁液を吸うときに、ウイルスも一緒に体内に取り込み、それを他の植物に感染させること。

ハス条斑病の対策

- ・種バスは注意深く観察し、症状が見られるレンコンは種バスに用いない。できれば、症状が見られたほ場のレンコンは種バスとして使わないほうが望ましい。
- ・症状が見られたほ場では、掘り残しをできる限り無くし、さらに、こぼれ落ちた種子や残渣中の芽をできるだけ取り除く。
- ・植え付け時および生育期のアブラムシ類の薬剤散布を徹底する。

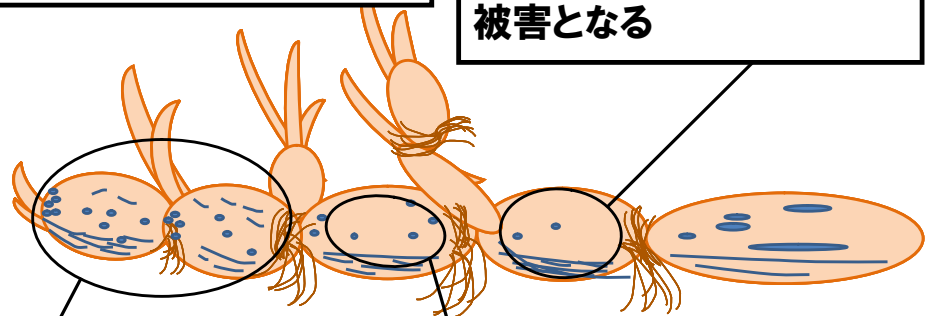
植え付け時には黒皮症の発生がない健全種バスを!

植え付け時に種バスを選別する際には、上述の条斑病ばかりでなく、黒皮症にも注意しましょう。もうご存じの方も多いと思いますが、改めて症状をお伝えします。



表皮に黒い小斑点、ひどくなるとかすり状の褐変、表面が凸凹に。

ランナーやすねにも出る。縦に引き延ばされたような被害となる



上面よりも下面で被害が目立つことが多い

先端1、2節の被害が大きいことが多い

- ・石灰窒素(は種前又は植付前に1回、散布後土壌混和で50~100kg/10a)を処理する。ただし、薬害を防止するために処理してから植付までには十分な期間を取る。
- ・黒皮症が見られる被害レンコンや根などの残渣は、なるべくほ場の外に持ち出し、処分する。
- ・レンコン以外に、周辺雑草にも寄生・増殖するため、除草を徹底する。
- ・黒皮症の発生が疑われるほ場で使用した器具はよく洗浄し、害虫の移動を防止する。

農薬は正しく安全に使いましょう!!!